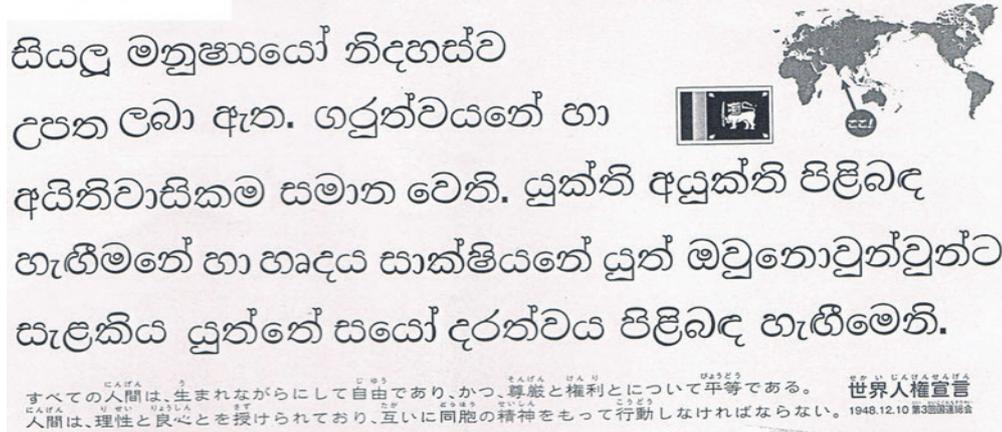


7 外国につながるのある生徒の理解のために

ワーク 1

次の文は、ある国の言葉で書かれた「世界人権宣言」です。



「見ながら学習 調べてなっとく ずかん 文字」八杉佳穂監修 技術評論社（平成 26 年）より

- (1) 上記の文章から **නිදහස්ව** (=自由)という単語を探して、 で囲みましょう。
- (2) 日本語を日常的に使用しない人が日本語の文章を見たとき、どのように感じるかを想像してみましょう。
- (3) (1)、(2)の活動で、皆さんはどのようなことを感じましたか。感想をグループで話し合みましょう。

ワーク 2

- (1) 次の表は、神奈川県内の児童・生徒数に関するデータをまとめたものです。表を見てわかることを挙げましょう。

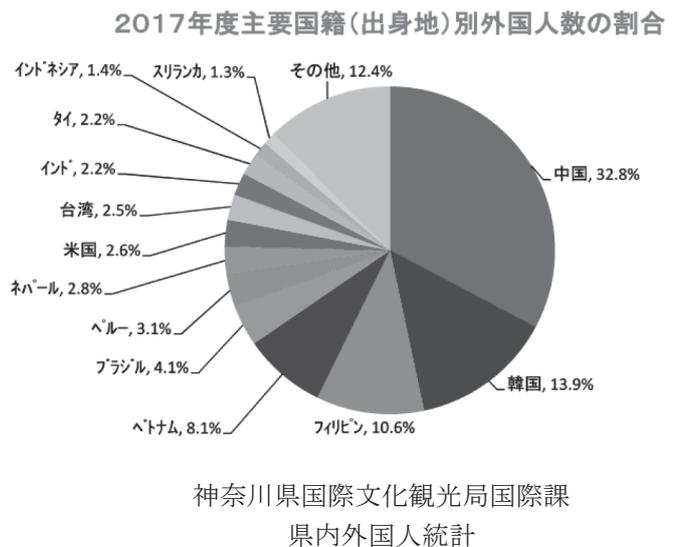
	ア 児童・生徒数	イ 帰国児童・生徒数 及び外国人児童・生徒数	ウ 日本語指導が必要な 外国籍の児童・生徒数	エ 日本語指導が必要な 日本国籍の児童・生徒数
小学校	451, 117 人	4, 603 人	2, 509 人	886 人
中学校	206, 737 人	1, 930 人	873 人	225 人
計	657, 854 人	6, 533 人	3, 382 人	1, 111 人

ア・イ「平成 28 年度神奈川県学校統計要覧」神奈川県教育委員会（平成 28 年 12 月）

ウ・エ「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成28年度)」文部科学省(平成29年6月)より作成

(2) 神奈川県在住の外国人の各国の主要言語を挙げ、気づいたことを発表しましょう。

	国	主要言語
1位	中国	
2位	韓国	
3位	フィリピン	
4位	ベトナム	
5位	ブラジル	
6位	ペルー	



気づいたこと

(3) 世界には様々な文化や風習があります。次はその一例です。各表の文化や風習とその内容を線でつなぎながら確認しましょう。

シエスタ	<ul style="list-style-type: none"> イスラム教で合法的なものを指す言葉。食事では、野菜、果物、穀類、牛乳、鶏卵、大半の魚類をはじめ、イスラム法に則って処理された食肉（豚肉を除く）などをいう。イスラム法では、豚肉およびその加工食品や酒類などの摂取が禁止されている。
ハラール	<ul style="list-style-type: none"> 中国における、旧暦の正月を示す。盛大なお祝いで、古代中国で年末年始に神や祖先をまつたことが始まりという。赤い色の提灯や縁起のよいことばを書いた赤い短冊をかざり、魔除けのために爆竹を鳴らす。
春節	<ul style="list-style-type: none"> スペインで、昼食後にとる睡眠あるいはその睡眠や休息に充てる時間。仕事を離れてお昼の休息に入るにふさわしい時間帯を意味していたが、最近では、デパート、スーパーマーケット、美術館をはじめ、午前から午後へ中断なく運営される企業、施設も増えている。

ワーク 3

次のような「外国につながるのある生徒」の事例について、「どのようなことに困っているか」「周囲が手助けできること」などを話し合っ、まとめましよう。

事例 1

僕は、中学生のときに来日しました。学校の授業は、すべて日本語だったので最初は全くわかりませんでした。特別に日本語を勉強する時間を作ってもらって、ようやくひらがな、カタカナが読めるようになりました。漢字はとても難しいです。この春、日本の高校に入学しました。個別対応の授業があり、授業内容が少しわかるようになりました。

事例 2

私は、日本生まれの日本育ちです。でも、両親はペルー出身なので、家ではスペイン語を話しています。友だちはたくさんいて、生活面で困ったと感じることはありませんが、学習面では、小学校3年生くらいから難しい漢字が多くなり、学校の勉強はあまりわからなくなりました。宿題がわからないとき、日本語がわからない親に聞くことができず、ますます勉強が苦手になりました。学校から届く書類などは、私が両親に説明しますが、難しい表現は適当に訳して伝えています。

事例 3

私は、ドイツ人の父親と日本人の母親の間に生まれました。国籍は日本ですが、顔立ちが日本人っぽくないので、小さいときから、度々「外国の方ですか?」と言われる。また、「英語は得意でしょ?」などと言われて、翻訳を頼まれますが、ドイツ語の簡単な日常会話はできるものの、英語はそれほど得意ではなく戸惑います。

事例 4

僕は、ムスリム(※1)です。高校生になったので、今年のラマダーン(※2)は、両親と一緒に断食をする予定です。体育祭と時期が重なっているので体力的に心配です。

以前は、日本の飲食店でハラールのメニューを探すのが大変でしたが、最近は、ムスリムのことを理解してくれるお店も多くなり、僕が食べられるメニューが増えてきて助かっています。

※1 ムスリム=イスラム教徒

※2 ラマダーン=断食月

ワーク 4

このワークをとおして、気づいたことや今後の生活に活かそうと思ったことをまとめましょう。

解説 7 外国につながるのある生徒の理解のために

1 ねらい

神奈川県では、外国につながるのある生徒が増加している。そのような生徒のルーツや文化的背景、日本語の習得レベルは様々である。そのため、個々に抱える問題や不安が多岐にわたっており、それぞれのニーズに合った支援が必要である。

このワークではまず、疑似的に日本語を母語としない人たちの立場になって考える。さらに、県内公立小・中学校で日本語指導を必要とする児童・生徒数のデータなどから、「外国につながるのある生徒」の存在に気づき、もしそのような生徒が身近にいた場合、そのルーツや文化的背景の多様性を考慮しつつ、相手の困り感や気持ちを積極的に理解したり配慮したりする生徒の姿勢を育てることをねらいとする。

2 進め方

展開例 (50分 3～4人のグループを作る)

学動活習	指点意留の上導
1 ワーク 1 (10分) ① 馴染みの薄い外国語の文章の中から、指定された単語を探し出す。(1) ② 日本語を母語としない人が、日本語の文章を見たとき、どのように感じるかを想像する。(2) ③ (1)、(2)で感じたことを話し合う。	○ 文章を見たときの印象などをふまえて話し合うように伝える。日本語を母語としない人が、日本語の文章を見たとき、どのように感じるかを想像するように促す。
2 ワーク 2 (15分) ① 表から読み取れることを挙げていく。(1) ② 神奈川県在住外国人の出身地上位6か国の主要言語を挙げ、グループで気づいたことを発表する。(2)	○ 日本語の指導を必要とする児童・生徒数だけでなく、国籍にも注目させる。日本国籍で日本語指導を必要とする生徒のデータから「外国につながるのある生徒」の存在への理解を促す。 ○ 在住外国人の国籍は英語圏とは限らないことに気づかせるとともに、定住化が進む中、これらの国をルーツとする「外国につながるのある生徒」が身近に増えている可能性にもふれる。

③ 各表の文化や風習とその内容をつなぎ合わせながら、様々な文化・風習があることを知る。 (3)

3 ワーク 3 (15分)

- ① 各事例をグループで分担し、
 - ・困っていると思われること
 - ・周囲が手助けできることについて話し合う。
- ② 各グループが担当した事例、及び話し合った結果などを紹介する。

4 ワーク 4 (10分)

本時の学習を振り返り、気づいたことや今後の生活に活かせることなどをまとめる。

○ 「外国につながるのある生徒」には、「ムスリム」など、多様な文化を背景にもつ人がいることに気づかせる。適宜解説を加えてもよい。

○ ワーク 1、2の学習を活かした話し合いになるように、助言する。話し合いの深まり具合を把握しながら、発表の順番などを工夫する。

○ 「外国につながるのある生徒」は今後も増え続けていくこともふまえて、身近なこととして考えるよう促す。

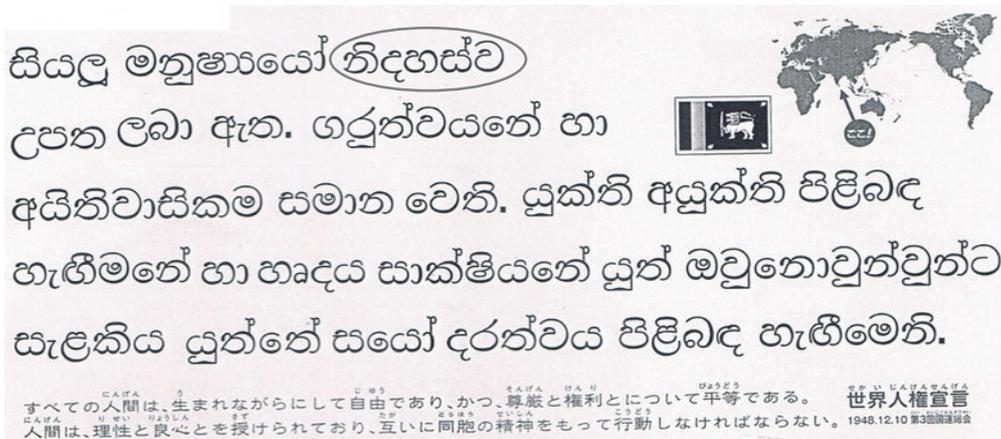
3 解説

(1) ワーク 1について

例題は、スリランカの公用語である「シンハラ語」で書かれた「世界人権宣言」である。

නිදහස්ව (=自由) という単語は  の部分に当たる。多くの生徒は、「シンハラ語」の文章を読んだことがないと思われるので、日本語を母語としない人が、初めて日本語の文章を見たときに抱く戸惑いと同様の印象を受けるものと想定している。

さらに、日本語を読解する際には、ひらがな、カタカナ、漢字の習得が必要となるため、より困難さを伴うことにも言及したい。



සියලු මනුෂ්‍යයෝ නිදහස්ව
උපත ලබා ඇත. ගරුත්වයන් හා
අයිතිවාසිකම සමාන වෙති. යුක්ති අයුක්ති පිළිබඳ
හැඟීමන් හා හෘදය සාක්ෂියන් යුත් ඔවුනොවුන්වුන්ට
සැලකිය යුත්තේ සයෝ දරත්වය පිළිබඳ හැඟීමෙනි.

すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。世界人権宣言
人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。1948.12.10 第3回総会

(2) ワーク 2について

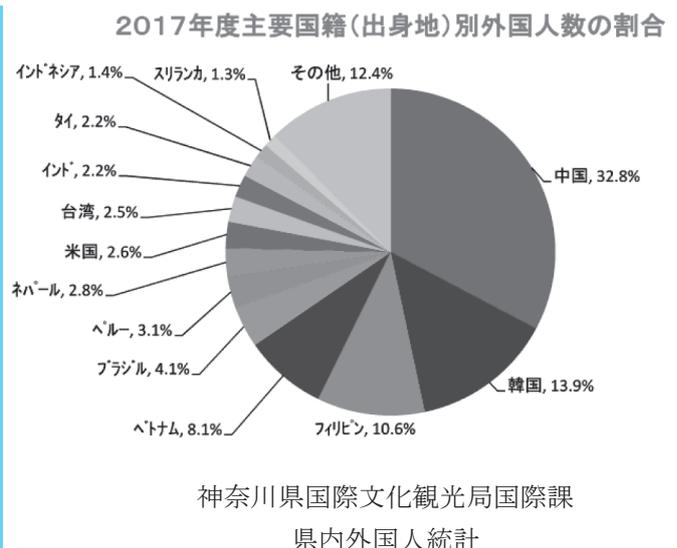
(1) のデータは、神奈川県内の公立小・中学校に在籍する児童・生徒数、帰国児童・生徒数及び外国人児童・生徒数、日本語指導が必要な外国籍の児童・生徒数および日本語指導が必要な日本国籍の児童・生徒数を表にまとめたものである。次のような解答が想定される。

- ・ 県内の児童・生徒数の1%が外国籍である。
- ・ 外国人児童・生徒数の約半分は日本語指導を必要とする。
- ・ 外国人児童・生徒数の約半分は日本語指導を必要としない。
- ・ 日本語指導を必要とする日本国籍の児童・生徒が存在する。

生徒の気づきをふまえながら、高等学校にも、日本語指導を必要とする日本国籍の生徒が存在することに注目させる。神奈川県では、日本国籍をもちながら、日本語の学習に課題を持つ生徒が増加しており、人権的な見地から、平成19年度に県が策定した「かながわ教育ビジョン」に則って、文部科学省等が使用している「外国籍（人）生徒」という言葉を「外国につながるのがある生徒」という言い方に変更している。外国籍の生徒だけでなく、外国に血縁があるが、保護者が日本に定住する過程で帰化するほか、保護者の婚姻などにより日本国籍を取得した生徒などを含む。

(2) で神奈川県の主要国籍（出身地）別外国人数の割合で上位6か国の主要言語を挙げていくと、実に多様である。この多様性に気づかせるとともに、定住化が進む中、これらの国をルーツとする「外国につながるのがある生徒」が身近に増えている可能性にも触れる。

	国	主要言語
1位	中国	中国語
2位	韓国	韓国・朝鮮語
3位	フィリピン	タガログ語・英語
4位	ベトナム	ベトナム語
5位	ブラジル	ポルトガル語
6位	ペルー	スペイン語



日本語指導経験者によると、中国語を母語とする生徒については、日本の漢字の雰囲気や指示内容をある程度は理解できる場面もあるが、それ以外で、日本語、英語をいずれも習得していない生徒については、意思疎通が困難な場面もあるようである。日本語の習熟度が低い生徒で、「カタカナ英語」の多用は逆に理解の困難を招くともいう。また、「わかりますか」「大丈夫ですか」などと問われても、日本語での説明

が難しいことから「はい」「大丈夫です」と答えがちで、本人の困り感が伝わりにくいことがあるようである。

次に、神奈川県における、外国人の在県の経緯を簡単にまとめた資料を挙げた。詳しくは、他の資料なども参照して欲しい。

中国

19世紀から世代を重ねる華僑の人々のほか、留学生、国際結婚、子どもの呼び寄せなど来日経緯は多様である。

韓国・朝鮮

戦前から日本で生活している在日韓国・朝鮮人の人々や、留学、国際結婚、仕事等で来日する人々がいる。

フィリピン

女性が圧倒的に多いのが特徴である。日本人と結婚して日本で子育てをする人も多い。

中南米（ブラジル、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、ドミニカ共和国など）

1990年以降、日系人を中心に増えた。その後の不況で仕事を失い帰国する人もいた。日本生まれの子どもも多い。

インドシナ三国（ベトナム、カンボジア、ラオス）

インドシナ難民を受け入れた大和定住促進センター（1980年開所/1998年閉所）があったことなどから、他県と比べて多い。近年、経済交流の進展に伴いベトナム人の企業関係者や留学生などが増えている。

「みんなで育てる多文化共生～誰もがいきいきと心豊かに暮らせるかながわを目指して～」
公益財団法人 かながわ国際交流財団（平成27年3月）

（3）では、「外国につながるのある生徒」は世界の様々な文化や風習の影響を受けている可能性に気づかせたい。

中でも、「ムスリム（イスラム教徒）」は宗教上の制約が多いため、衣食などにおいて、配慮を必要とする場面が多くあるが、このことは意外に知られていない。次に簡単に紹介するので必要に応じて適宜紹介してもよい。

食事

豚肉及びその加工品、ハラール認定されていない食肉、酒類は食べられない。

女子の服装

思春期以降は顔と手以外を隠し、体形が分かりにくい服装が好まれる。

礼拝

1日5回礼拝を行う。学校では昼休み前後や部活動の時間などに重なることがある。

ラマダーン（断食月）

健康なムスリムは1年に1ヶ月程度、日の出から日没まで、水を含め一切の飲食を行うことができない期間がある。

イスラム教の戒律は、宗派や出身国・地域等によって異なる場合があるほか、宗教規範にどの程度まで厳格に従うかは保護者の考え方により大きく異なるため、実際には、本人や保護者の意向を確認する必要がある。

(3) ワーク3について

事例1、2のように学校と家庭で使用する言語が異なることなどによる「学習言語」習得に絡む困り感や、事例3のようないわゆる「レイシャルハラスメント（人種・国籍による差別）」、事例4のような文化・宗教上の問題など、「外国につながる生徒」について配慮すべき点は多岐にわたる。また、日本語の習熟度の個人差もあり、それぞれの困り感を個々に応じて受け止めようとする態度が必要と考えられる。

日本語指導経験者が見聞きした「外国につながる生徒」の困り感として次のような事例もある。

- 転校の初日はみんながまわりに集まって親切にしてくれたけど、1週間も経ったら、だんだん気にされなくなった。
- 父親が予定を決める習慣があるため、土日は家族行事が優先となり、部活に入りたいけれど入れないほか、約束なども急に家族の都合でキャンセルしてしまうことがある。
- 日常会話は問題ないが、学習上での語彙は理解するのに難しい。先生に一生懸命聞いてもわからないことが多いが、さぼっているわけではない。
- わからないことを親に聞くことができない。親の方が、日本語が苦手だから宿題を見てもらえなかった。書類などは全部自分でやってきた。

各事例の分析をとおして、「外国につながる生徒」に特有の困り感を知るための観点をもつとともに、仲間として寄り添おうとする態度が育つことを期待したい。

<参考資料>

- 「エリア・スタディーズ 116 現代スペインを知るための60章」明石書店（平成25年3月）
- 「キッズペディア アドバンス なぞ解きビジュアル百科 日本と世界の祭り」小学館（平成28年10月）
- 「外国につながるある児童生徒への指導・支援の手引き」神奈川県教育委員会教育局支援教育部子ども教育支援課（平成24年6月）
- 「まんが クラスメイトは外国人 多文化共生 20の物語」外国につながる子どもたちの物語編集委員会 編 明石書店（平成21年4月）
- 「まんが クラスメイトは外国人 入門編 はじめて学ぶ多文化共生」外国につながる子どもたちの物語編集委員会 編 明石書店（平成25年6月）
- 「イスラームの子どもたちを理解するために」公益財団法人 かながわ国際交流財団（平成29年3月）